

個人質問

31人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

全員の個人質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。

教育・まちづくり Education Community Planning



ICT機器を活用した授業

ICT機器の導入で広がる交流

問 「小規模校におけるICTを活用した学校づくり事業」を平成29年度から行っているが、現状や成果と課題は。また、今後どのように取り組むのか。

答 8校を対象に、2校ずつでペアをつくり、運動会や学習発表会などの様子、授業で調べたことを紹介し合っている。交流を重ねることで、子どもたちの親交も深まり、「もっと一緒に勉強したい」という声も聞こえている。

授業前の打ち合わせや機器の設定に時間を要するなどの課題があり、当面は教育委員会の支援が必要だが、今後、国内外で活躍する人とつないだりすることも可能と考える。

役割分担や費用負担について 三者協議

問 平成15年に吉備線LRT化の構想計画が発表されて14年が経過している。2期目に入った市長の今後の取り組みの予定と決意は。

答 現在、本市、総社市、JR西日本の三者で事業費や維持管理費を精査するとともに、需要

予測や収支計算を行い、併せて役割分担や費用負担について協議を重ねている。

本市と総社市は、初期投資は国、両市、民間事業者が応分の負担をし、事業化後の運行経費、施設などの更新費はJR西日本にお願いしたいと考えて交渉しているが、現在のところ合意点を見いだせず非常に厳しい状況にある。引き続き協議を重ね、三者の合意点を見いだすことに努めていきたい。

岡山駅前の渋滞を シミュレーション

問 路面電車の岡山駅前広場乗り入れに伴い、駅前交差点の渋滞発生が懸念されている。乗り入れ後の信号パターンによる実証実験を早期に行うべきでは。

答 現在検討中の駅前広場のレイアウト変更や、再開業に伴う交通量の変化などを反映した実証実験はできない。また、信号の切り替えや調整、交通量調査・解析に1億円を超える費用が必要となる。

しかし、コンピューターによる解析方法の一つである交通シミュレーションなら、レイアウト変更なども加味でき、交通量変化を詳細に予測できる。また、ピーク時の交通状態まで分析できることから、実証実験に近い形で確認できる交通シミュレーションを採用し、平成30年1月末をめどに結果を取りまとめたい。

街路樹をまちづくりに

「活かす」

問 しもたまち 下田町公園東側の道路などで樹木がバッサリ切られている。このような剪定を行った理由は。

答 落ち葉の散乱や、建築物に枝葉が接触するなどの苦情に対応するため、早い時期に剪定を行っているが、基本的に緑を確保することが都市景観や環境保全、歩いて楽しい街づくりには必要と考える。

街路樹の緑の確保に関する基本的な方針を早急に取りまとめ、平成30年度には、まず桃太郎大通りなどのシンボリックな道路の剪定方法を変更していく。順次取り組みを進めながら、緑豊かな街路樹の再生を図っていきたい。

公共施設の管理方針を定めた 個別計画を策定予定

問 瀬戸町総合運動公園は利用者が大幅に増えているが、老朽化も進んでいる。大規模施設は施設ごとの改修計画が必要では。

答 規模の大小にかかわらず、「岡山市公共施設等総合管理計画」に基づき、平成32年度をめどに個別施設計画を策定する。

大規模改修をする際は、利用者のニーズも踏まえ、必要な機能改善等も検討していきたい。



野外ステージがある瀬戸町総合運動公園

福祉・防災

Welfare
Disaster Prevention

子ども食堂で食の楽しさを

問 地域では、子ども食堂による、食を応援する取り組みが進んでいる。岡山市食育推進計画に、子ども食堂を支援していくと明記すべきでは。

答 貧困状況にある子どもへの食育は、家庭での取り組みが不十分であることが多いため、保育所、学校園での支援を中心にしているが、子ども食堂は地域で食の楽しさを体験できる場と認識している。

取り組みを行う団体と連携し食育が推進できるよう、計画に盛り込むことを検討していく。

支え合いの地域づくりを支援

問 地域課題での福祉の比重が一層増している。中学校区で困った時に相談支援を担い、複数のサービスを調整し、一体的・総合的に提供してくれる人の配置や育成をどう考えるのか。

答 現在、支え合いの地域づくりを支援するため、市内全域を担当する※7第1層生活支援コーディネーターを配置し、各地域の課題の把握や支援方法等を、公民館の地域担当職員にも参加してもらいながら協議している。

今後、それぞれの日常圏域で地域包括ケアシステムを推進していくためには、実情に応じた地域づくりが必要であり、既存の組織で活動している人の育成等も行っていきたい。

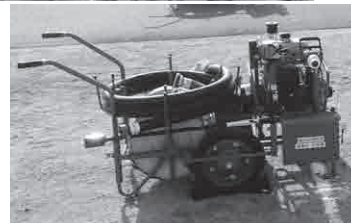
相談支援包括化推進員を配置

問 岡山市地域共生社会推進計画では、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることを目標に、分野を超えた支援

体制の確立が求められている。相互連携による支援の流れをどのように構築するのか。

答 個人や世帯の状況によって課題や関係機関が多岐に渡ることから、あらゆる関係者や機関と連動して適切な支援を行うため、新たに相談支援包括化推進員を配置する。

単独の相談機関では解決できない事例について、関係機関との調整やルール作りなどを実施し、適切な支援につなげる仕組みづくりを進めていきたい。



訓練する女性消防団員と軽可搬ポンプ

(注) 学生消防団活動認証制度で若年層の入団を促進

問 本市の消防団は、日夜、市民の生命・財産を守るため精力的に活動しているが、少子高齢化が進む中、団の充実はどう取り組んでいくのか。

答 消防団の安全装備の充実を図るとともに、市内5カ所に女性消防団員用の軽可搬ポンプを配備し、初期火災対応の強化に努めている。

また、平成29年度中に、学生消防団活動認証制度を導入し、大学生等の地域貢献への意欲を向上させ、若年層の入団を促進していきたい。

ハード、ソフト両面を組み合わせた総合的な浸水対策を

問 全国で豪雨災害が発生し、本市でもゲリラ豪雨が予想される中、早急な対策が必要では。

答 平成29年10月に岡山市浸水対策基本計画2017を策定し、雨水管やポンプ場等の施設整備や、内水対策として倉安川の河川整備など抜本的な対策を進めることにしている。しかし整備には経費と時間がかかることから、既存用排水路の浚渫や橋梁などでボトルネックとなっている箇所^{しゅんせつ}の拡幅、部分的な護岸のかさ上げなど、きめ細かで即効的な対策も行っていく。

また、市民や事業者による雨水流抑制施設の設置や避難対策の取り組みを強化するなど、総合的な浸水対策を進める。

進む転落防止対策

問 平成29年度に用水路の安全対策をどのくらい計画し、着工、完了したのか。また、町内会への説明は完了したのか。

答 29年度から2カ年で、危険性が高い約900カ所の安全対策を集中的に実施していく計画で、11月末までに246カ所を着工し、184カ所を完了した。

また、29年、30年に実施する箇所については、「特に危険性が高く2年間で安全対策を実施する箇所」として各町内会長に通知し、安全対策工事の実施には、現地で地元関係者と工法や範囲を確認し、進めている。



安全対策を実施した用水路

◆用語解説 ※7【第1層生活支援コーディネーター】

地域で生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす人を生活支援コーディネーターといい、第1層は市町村区域で主に不足するサービスや担い手の創出・養成、活動する場の確保を担い、第2層は中学校区域で具体的な活動を展開する

(注) 学生消防団活動認証制度

3ページ「常任委員会審査から」の「環境消防水道委員会」に掲載

経済・暮らし

Economy Life



桜井日奈子さん主演のPR動画

「鬼カワイイ岡山市」の動画で本市の認知度や好感度向上

問 桜井日奈子さん主演の本市PR動画が好評と聞いているが、効果をどう評価しているか。

答 動画の再生回数は、平成25年から3年間配信した「伝説の岡山市」の91万回を2カ月余りで超え、100万回を超える勢いで拡散されている。

また、地元の小学校や企業等からも動画の使用に関する問い合わせが数多く寄せられるなど、市民にも好感を持って受け入れられていることから、市内外で「桃太郎のまち岡山」の認知度や好感度の向上につながっていると考えている。

木造住宅耐震改修補助制度を使いやすい制度になるよう検討

問 木造家屋の耐震改修には耐震改修補助金があるが、いったん全額を業者へ支払わなければならない。耐震改修促進計画の耐震化目標を達成するためにも、補助金を市が直接業者へ払う代理受領制度にしてはどうか。

答 代理受領制度は、耐震改修時の市民の経済的な負担を減らすなど、より利用しやすい制度だと考えている。既に制度を導入している他都市の事例を参考に検討したい。

◆用語解説 ※8【アライ】

英語で「同盟、支援」を意味する ally が語源で、LGBTの当事者ではない人が、LGBTに代表される性的マイノリティーを理解し支援するという考え方、あるいはそうした立場を明確にしている人々を指す

※8 アライを増やし理解を促進

問 男女共同参画社会の形成の促進に関する条例に、多様性尊重の文言を盛り込んで。また、性的マイノリティーの支援としてアライの見える化を図っては。

答 条例制定から15年がたち、性の多様性の尊重など、さまざまな課題が出てきているので、市民や当事者も巻き込んだ議論を速やかに開始したい。

また、第4次さんかくプランでは性の多様性の理解促進を具体的施策として掲げ、啓発や支援を行うこととしているが、当事者を理解し支援するアライを増やすことも重要であり、アライの見える化の取り組みを検討していきたい。

地域と一緒に乗合タクシーの利用を促進

問 迫川地区で取り組んでいるデマンド型乗合タクシー「ブンタク」の稼働率が低迷し、住民は利用促進に知恵を絞っている。市は地域の思いにどのように応えていくのか。

答 平成30年4月からの本格運行に向け、利用料金の引き下げや目的地に灘崎支所周辺を追加するなど、検討を進めている。

迫川地区の熱意ある取り組みは、他の地区でも大変参考になり、生活交通が便利で使いやすく持続可能なものとなるよう、今後も地域と一緒に創意工夫しながら取り組んでいきたい。

ふるさと納税の魅力アップで岡山を元気に

問 平成30年度の返礼品はどうなるのか。また、本市を訪れて

もらい、情報発信につなげる考えはあるのか。

答 歴史・文化に触れる西大寺会陽体験、周辺地域に足を運ぶ観光農園体験などを取り入れた体験型返礼品を考えている。

また、従来1万円と3万円以上だった返礼品のコースに、5万円と10万円を加える。これにより、これまで実施できなかった宿泊のセットや、高級果物の季節便など、より魅力のある返礼品が提供できることになり、生産地域の振興などにつながるのではないかと考えている。

「貢献」で都市格を高める

問 水道分野の国際協力の推進など、貢献を軸に本市の強みや特性を取りまとめ、パッケージとして発信すれば、郷土への誇りの醸成や都市格の向上にもつながるのではないかと考えている。

答 国際貢献につながる事業は多種多様で、各部署で個別に実施している。例を挙げると、日本外交協会等から依頼を受けて平成26年度以降、不要になった塵芥収集車など13台をスリランカやケニアへ寄贈した。

貢献を軸とした施策を情報発信することは、都市格の向上などにつながると考えられることから、貢献というカテゴリでの事業集約や国内外に向けた発信方法については、関係部署と検討していきたい。



スリランカへ寄贈した収集車